

科目名		環境工学			
担当教員		野口 信彦		実務授業の有無	有
対象学科		建築士学科	対象学年	1	開講時期
必修・選択		必修	授業形式	講義	時間数
授業概要、目的、授業の進め方		建築計画と自然環境の関わりを理解し、快適で目的に応じた建築計画について学ぶ。 1. 後期は「日照・日射」「結露」「換気」「音」「建築環境」等について理解する。 2. 建築環境における具体的な工夫について学ぶ。 3. 評価テストを適宜行い、理解度を確認する。			
学習目標 (到達目標)		建築空間を取り巻く外部環境や内部環境について理解し、安全で快適な建築空間を作るための知識を習得する。建築士の学科試験範囲にあたる科目のため、合格点に達する習熟度を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 やさしい建築環境 プリント			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	日照・日射 ①太陽の位置 ②日影 ③日射量			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～③を理解する 準備学習：教科書①②③の予習	
2	湿度と結露 ①結露の仕組み ②結露防止			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①②の予習	
3	空気汚染と換気 ①空気汚染の原因 ②汚染物質の許容濃度と必要換気量			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①②の予習	
4	自然換気と機械換気 ①自然換気と機械換気の種類・特徴・用途			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
5	音環境 ①音のしくみ ②吸音・遮音			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①～②を理解する 準備学習：教科書①②の予習	
6	建築環境 ①都市環境や風土と建築の関係			方法：教科書、資料を使って説明、解説の座学 達成目標：項目①を理解する 準備学習：教科書①の予習	
7	(適宜、評価テストを実施し、理解度を確認する。)				
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
評価テスト	取組姿勢			住環境で身近に起きている現象を掘り下げて科学的にとらえて理解し、建築計画に活用できるようにする。また適宜、評価テストを行い習得状況の確認する。	
80 %	20 %	%	%		
成績評価基準は					
A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		設計事務所にて設計業務に11年従事			